



教師を目指す学生による「学生文化」「学校文化」の創造と
新たな「学生と学校のWin-Winの関係」の構築

東浦町SP通信

～東浦町では、学生ボランティアを“職員の仲間”という思いを込めて、
「SP」または「スクールパートナー」と呼んでいます。～

第8号

2024年8月20日

編集 緒方 なな
東浦町教育委員会
SPコーディネーター

「2024わくわく算数教室」準備会

8月20日(火)午後、明日から開催される「わくわく算数教室」の準備会が片葩小学校でありました。13人の SP さんが明日からの算数教室に向けてバッチリ準備をしてくれました。中には午前中に他の学校や町内の施設で補充学習会の支援活動してくれたSPさんも。疲れた素振りもいっさい見せず、どんどん準備を進めてくれました。準備から SP さんにしてもらう、“わく算”の学生文化も脈々と続き、今年で12年目となります。SP さんの力があってこそ、当日のスムーズな運営に繋がっているのでしょう。



片葩小の貝沼校長先生も準備会に来てくださり、お話しをしてくださいました。そのお話しの一部を抜粋して、みなさんと共有できたらと思います。

- ★ あんまり難しく「教えようかな？」と思うと、先生側（の立場）になってしまう。皆さんは、先生でもなく友達でもない、“学生”という先生や友達とは違う関係性。だから、子どもたちは「叱られないだろう」「無理にやらされないだろう」と考えてくるので、その期待に応えてあげてほしい。
- ★ 掛け算、割り算も割合が基になっている。SPさんもそこを意識してほしい。例えば、小数の計算であれば、大切なのは“桁をそろえること”。計算スキルだけある子どもがたくさんいると思うが、計算だけやっても楽しくない。その先（＝その学習で大切なことは何か？）をSPさんも意識して、考えながら子どもたちに言葉をかけてあげてほしい。
- ★ 計算できたから、合っていたから、それでOK！終わり！ではなく、子どもたちが持っている知識や力を引き出して、次のステップは何かも考えて試してみたい。
- ★ あまり教え込まず、SPさん自身も楽しんで！たくさんチャレンジしてほしい！

校長先生から直接お話しを聞くことができる機会はなかなかないのではないかと思います。貝沼校長先生の他にも、東浦町の先生方は、SPさんとよく話をしてくださいます。（もちろんそれは、SPさんが子どもたちのためにと日々真摯に活動してくれるからなのですが……。）将来の同僚のために、日本の教育のために、そして目の前の意欲溢れる学生さんのために、親身になって関わってくださる先生がたくさんいます。学生さんにとっては最高の学びの環境だと思います。では、明日からがわく算の本番！子どもたちも楽しみにしているはずです。8日間、よろしくお願いします。

